

憧れの和牛の世界へ新規就農

執筆 新城設楽農林水産事務所農業改良普及課

氏名・産地名	垣内 ^{ともえ} 与枝さん
経営類型・作目	肉牛（繁殖）
市町村	新城市



垣内与枝さん

1. 経営・産地概要

- （1）経営規模 和牛繁殖 68 頭
- （2）労働力 家族 2 名（本人、父）
- （3）販売 市場出荷

稲作と和牛繁殖を複合経営する父親の娘として育った垣内さんは、小さい頃から和牛繁殖での就農を志し、高校在学中に家畜人工授精師、家畜体内受精卵移植師の免許を取得しました。卒業後は愛知県畜産総合センターの技術練習生となり、畜産経営に必要な基礎知識や技術を習得しました。その後、農業経営を学ぶため、日本農業経営大学校に入学し、農業経営者に求められる農業経営や諸制度も学び、就農に向けて万全の体制を整えました。

2. 取組

2025 年 1 月に父親から和牛繁殖部門を継承し、就農しました。父親時代の従来の飼育技術に加えて新しい技術を取り入れ、試行錯誤しながら営農しています。



母牛飼養牛舎の外観

○繁殖成績向上に向けて

安定的に子牛が産まれるようにするため、母牛に与える餌の配合と量を調整し、母牛が妊娠しやすくなる最適な給餌条件を探っています。母牛に良質な餌を与えすぎて餌代が予算超過してしまったり、栄養状態が良くなりすぎて逆に妊娠しにくくなったりと失敗しながら、1 年に 1 回の出産を目指して母牛に適した給餌条件の設定に取り組んでいます。

また、発情発見率の向上を目的として、発情を検知する AI カメラを導入しました。カメラが発情の兆候を捉えると、画像とともにスマートフォンへ通知が送られてきます。従来の目視による確認だけでは見逃していた個



導入した AI カメラ

体も把握できるようになり、人の負担を減らすと同時に、より多くの発情を発見できるようになりました。これらの取組により、更なる分娩間隔短縮に取り組んでいます。

○自給飼料生産により飼料費を削減

就農してから色々な資材価格が高騰し、経営を圧迫しています。経営を安定化させるために自給飼料の安定的確保にも取り組んでいます。まずは経費負担の大きい餌代を下げるために、自給飼料の栽培を稲作担当の父親にお願いしています。普及指導員の指導を受けながら、安定的に高品質な自給飼料を確保ができるように取り組んでいます。



生産された自給飼料

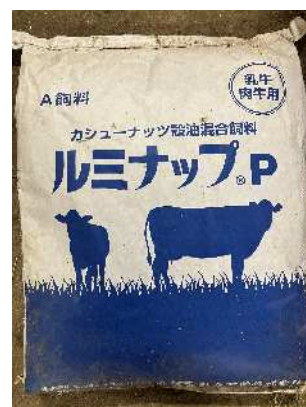
○「品質の良い」和牛子牛生産のために

次に、子牛の販売単価を上げることを目指しています。遺伝的能力を評価する新技術を積極的に取り入れ、母牛として後継に残す牛や、次に種付けを行う血統を決める材料としています。また、肥育農家に赴き、出荷した子牛の肉がどのような品質だったのか等を聞き取り、子牛の飼養管理や血統にフィードバックを行っています。また、新しい血統や優れた枝肉が生産できた血統情報を積極的に取り入れ、肥育農家が欲しいと思ってくれるような子牛の生産に取り組んでいます。

○消費者を見据えた和牛繁殖経営へ

子牛を肥育農家に売って終わりではなく、消費者ニーズを意識した繁殖農家を目指したいと考えています。

その一貫として、環境負荷低減に配慮した畜産を目指し、「みどり認定」※を取得しました。将来的には肥育農家にも働きかけ、生まれてからお肉として消費者に届くまで一貫した環境負荷低減に取り組めば、それが付加価値に繋がるのではないかと考えています。



導入した環境負荷低減飼料

色々と課題は多くありますが、小さいときから希望していた和牛繁殖経営を頑張っていき、将来的には和牛の業界全体を盛り上げていける一助になればいいなと意気込んでいます。

※みどり認定とは、農林漁業者が環境負荷を低減する事業活動に取り組む計画を作成し、都道府県知事から認定を受ける制度です。